

## 研究結果報告書

### 台湾人日本語学習者の音韻情報処理に対する日本語単語親密度の影響：聴覚語彙性判断課題と音読課題を用いた検討

所属：台湾東呉大学 日本語学科  
役職：助理教授  
氏名：陳 相州

【研究テーマ】「台湾人日本語学習者の音韻情報処理に対する日本語単語親密度の影響：聴覚語彙性判断課題と音読課題を用いた検討」

#### 【研究結果】

心理言語学の立場では、人間の脳内に心的辞書というのがあるものと仮定し、その心的辞書へのアクセスに影響を及ぼす基本的要因の一つとして考えられるのは単語の親密度である。本研究の目的は、日本語の親密度が台湾人日本語学習者の音韻情報処理に如何なる影響を与えるのかを明らかにすることである。

心的辞書にある音韻表象へのアクセスは、音声を手掛かりとして音韻表象に直接アクセスするというルートがあるほかに、書字表象を通して音韻表象にアクセスするというルートも存在している。本研究では180名の台湾人日本語学習者を対象とし、聴覚語彙性判断課題と音読課題の実験を行い、単語親密度が台湾人日本語学習者の音韻情報処理に与える影響を考察してみた。聴覚語彙性判断課題では、陳（2016）が構築したデータベースから次の条件を満たす単語を抽出した。①表記が漢字2文字、②単語長が4モーラ、③アクセントが平板型または尾高型、④同音異字語が存在しない、⑤同字異音語が存在しない。それから、音声単語親密度の【音声単語親密度+・頻度+】、【音声単語親密度+・頻度-】、【音声単語親密度-・頻度+】、【音声単語親密度-・頻度-】の4組に各々7単語、合計28単語を選定した。またダミー語も28語を作成した、以上の56語をこの課題の刺激語とさせた。音読課題は、聴覚語彙性判断課題に用いた刺激語の以外に、文字単語親密度の影響も研究明したいため、文字単語親密度を考慮した新たな28語の刺激語を作成した。本研究では心理学実験ソフト SuperLab Pro とボイズキーを使って聴覚語彙性判断課題と音読課題を行なった。

本研究の調査結果は以下のとおりである。まず、最初の聴覚語彙性判断課題の実験では、音声単語親密度が学習者の語彙判断の反応時間と正答率に与える影響を調べたところ、台湾人日本語学習者にとっては音声単語親密度が高いほど反応時間が短く、かつ正答率が高いという結果が得られた。次に、音読課題の実験では文字単語親密度と音声単語親密度が音読反応時間に与える影響を考察したが、台湾人日本語学習者は文字単語親密度の影響を受けているが、音声単語親密度による影響が見られなかった。以上の調査結果からは言えるのは、台湾人日本語学習者の音韻情報処理では、音声経路のルートは音声単語親密度より文字単語親密度による影響が見られるが、文字経路のルートは音声単語親密度より文字単語親密度による影響が大きかったというところである。台湾人日本語学習者を対象とした日本語語彙の発音指導は、学習者が単語を見せるといふことが、今回の研究より示唆された。

#### 【参考文献】

陳相州（2016）『台湾人日本語学習者を対象とした日本語単語親密度の調査』致良出版社

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

なし

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「台湾人日本語学習者を対象とした音声単語親密度調査」・陳相州・『台湾日語教育学報』27号・2016年12月31日
2. 「台湾人日本語学習者台湾人日本語学習者の音韻情報処理に対する日本語単語親密度の影響：聴覚語彙性判断課題と音読課題を用いた検討」・陳相州・『台湾日語教育学報』29号・2017年12月31日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

なし